

NEWS LETTER 創刊

OMRC(オキナワマリンリサーチセンター)は1995年に創設して以来、世界各地からいらっしゃるお客様に、沖縄の地で、「生命と自然の共生」をテーマに人と自然のふれあいを通して、その楽しさと素晴らしさを理解していただくことを目指し、「自然」「教育」「研究」の категорияで活動しています。この度、その活動の様子を広く知っていただくことを目的に、NEWS LETTERを発行する運びとなりました。折々のトピックや、会社として取り組んでいる活動内容、動物達やスタッフの様子などを、ご紹介いたします。どうぞお楽しみに！！



OMRC SDGs宣言

OMRCは、創業以来『楽しく遊びながら学ぶ』をコンセプトに、ヒトと動物が将来にわたって共に暮らしていける地域づくりを目指してきました。このコンセプトは国連が提唱するSDGs(持続可能な開発目標)にも通じるものであり、今回ホームページ上でSDGs宣言を行いました。

どのような宣言を行ったのか、具体的な取り組みの内容は是非ホームページをご覧ください。



取り組みの内容はこちら→



OMRC子どもエコクラブ始動



OMRC子どもエコクラブの今年のテーマは“恩納村内の海岸漂着物や沿岸に生息する生物の調査”です。6月から11月まで、毎月2回、恩納村の海岸にてビーチクリーニングを行い、どのような漂着物がどのくらい流れ着いているのかを調査します。また、どのような魚や貝、ナマコなどが生息しているのかを調べる為に、自ら仕掛けを作ったり、魚釣りを行ったりして捕獲し、観察・調査を行います。12月には活動の成果を1枚の壁新聞にまとめ、全国に向けて発表報告を行う予定です。

近年海洋に漂流するプラスチックごみや生物の生息域の変化が指摘される中、どんな結果が得られるのか注目です。



人工授精による、赤ちゃんイルカ誕生

OMRCではイルカなどの海洋哺乳類の保全保護のため、その繁殖に関する学術的な研究を行っており、『種の保存』への寄与を目指しています。その一つであるバンドウイルカの人工授精技術によって、本部町にあるもとぶ元気村にてこの春2頭の赤ちゃんイルカが誕生しました。



レグルス(♂)と母レオ



テモ(♀)と母ディッパー

これまで、飼育下にある鯨類を繁殖させるためには、オスとメスを同居させることが必要でした。この方法では、原則として同じ施設内でしか繁殖が出来ず、飼育群の遺伝的多様性を保つことが困難です。他施設と動物を交換する方法もありますが、完全な水棲生物である鯨類は輸送方法が難しく、また動物にとっても輸送そのものや慣れ親しんだ仲間や場所との別離という大きなストレスがかかります。また、受精したのがいつなのかがわかりにくく、正確な出産予定日を推定することが難しい為、出産に向けた準備を十分に行うことが出来ません。

これらの問題解決のため、雄の精液を長期間保存することが出来る保存液を作成する技術を持つ、いおワールかごしま水族館と共同研究を行っています。OMRCでは、メスの卵巣のエコー検査や、血中の性ホルモンの濃度を調べることによって排卵の時期を特定し、子宮内に精液を注入することで授精・妊娠させる技術を磨いています。また、生まれた仔イルカを健康に成長させる技術の向上にも努めており、2頭のイルカはすくすくと成長しています。

スタンディングしたイルカを保護



5月25日に、隣接する仲泊ビーチにイルカが生きたまま打ちあがっていると連絡がありました。スタッフが確認したところメスのシワハイルカで、体色や大きさなどから未成熟の個体と思われます。海への放流を試みましたが再度砂浜に打ち上げられてしまい、体中に傷も見られたことから保護し、治療を行いました。残念ながら10日後に死亡してしまいました。

野生動物を保護する難しさと、今後さらなる努力が必要だと痛感させられる出来事でした。

いきもの探し ~フクギ~



屋敷林として植えられ、紅型の染料にもなります。黄色い実が目立ち有名な一方、5月頃に咲く花も、小さいながらも淡い緑色がかった白い花びらが美しいです。